

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	4月	20日	(記入者) 西野稔	
取材参加者	石井	西田	西野	本井	宮本
取材対象先	奈良市：海龍王寺の木造愛染明王坐像				

所在地	奈良市法華寺町897				
所有者(取材 対応者)名	海龍王寺 石川重元住職		連絡先：0742-33-5765		
	(個人情報守秘)		PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：海龍王寺 住職				
市町村 指定文化財	彫刻 1 軀	木造愛染明王坐像			2002(平成14)年 3月4日 指定
	建造物 棟				
文化財指定理由	文化財の横に置かれた説明によると、「覚清大法師を願主として椿井仏師の椿井丹波師によって永享十二年(1440)六月一日に開眼供養されたことが、台座の受座に記されている。」とある。椿井仏師所で制作され、作者や制作時期が明確な仏像で貴重であるため指定されたと思われる。				

文化財の状況

防火対策	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
	彫刻に関しては、重要文化財「十一面観音菩薩立像」の厨子の横に安置されており、同様の対策がなされている。本堂は中に重文が安置されているので対策は十分なされている。表門は道路沿いで車が多いが、消火器を設置済み。	重文同等の対応がなされている。
獣害対策	被害の有無、対策など	記入者の感想
	彫刻に関しては同上。本堂は重文を守るための対策がなされている。表門は道路に面し誰でもが触れる状況。	彫刻は重文同等の対応がなされていると考えられるが、表門に関しては対策は困難と考えられる。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	重文を持っているため、そのための文化財を守るための対策がなされているので、保存～継承のレベルは常に同等と考えられる。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

重文同等といっても良い状況なので、課題などは感じられない。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	4月	20日	(記入者) 西野 稔	
取材参加者	石井	西田	西野	本井	宮本
取材対象先	奈良市：海龍王寺の木造愛染明王坐像				

《写真撮影許可済》

文化財指定名 木造愛染明王坐像

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
	
文化財 (安置状態の全体写真)	斜め後ろから
	
文化財の由緒・説明板の有無など	所有社寺や地域 (廃寺など) の歴史や特徴等
<p>愛染明王座像 四十五・五センチ 室町時代 奈良市指定文化財</p> <p>真言律宗の特徴である「愛染信仰」のもと、 覚清大法師を願主として梅井仏師の梅井丹 波師によって永享十二年(一四四〇)六月 一日に開眼供養されたことが、台座の受座 に記されている。</p> <p>檜材の寄木造りで、両眼と獅子眼は玉眼に なっており、頭上に獅子冠を戴き、鬘髪・ 天冠台および冠帯をつける。</p> <p>三目を見開き、開口して忿怒形をなし、六 臂の姿をとり糸帛・裳をつけて右足を前に して結跏趺坐して大円相光を負い、台座 七重蓮華座で蓮華の下に宝瓶を置く造り なっています。</p>	<p>聖武天皇・光明皇后が重用した玄昉を住持に 任じた。玄昉が唐からの帰路、暴風雨に遭遇 するも『海龍王経』を唱え無事に帰国を果し たことにちなんで、寺号が海龍王寺と定めら れた。 (海龍王寺のサイトより 23/05/12)</p>